

## 第 8 回日本食海外普及功労者表彰受賞者講演内容

吉武 理恵

はじめまして。ロンドンから参りました吉武理恵と申します。本日は日本海外普及功労者賞の栄誉をいただき、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

私は、福岡県は宗像という小さな港町で育ちました。宗像の住民は古代から海人族と呼ばれ、どういうわけか海の向こうの文化に興味を持つらしく、私も 30 歳の時に志を持って英国に渡りました。それ以来約 30 年、ロンドンから、日本と英国を結ぶ仕事に携わってまいりました。

現在、私は日本酒のプロモーターとして、日本酒の魅力を伝える努力をしております。そのきっかけは、2006 年の酒サムライとの出会いです。酒サムライとは、失われつつある日本酒と日本の伝統を守り、世界に広めるために結成された全国若手蔵元の組織です。私は、酒サムライの活動をサポートするにつれて、日本の文化、日本の魂である日本酒について、海外の人にもっと知ってほしいと強く考えるようになりました。

インターナショナル・ワイン・チャレンジ、IWC は、ロンドンを拠点とする世界最大級のワイン審査機構です。日本で酒サムライコーディネーターをされている平出淑恵さんのご尽力にはじまり、酒サムライの協力を得て、2007 年に IWC に日本酒部門が誕生しました。私も当初から関与しておりますが、今年は 8 年目を迎え、12 カ国から 40 名の審査員が参加しました。今年は新たにスパークリング酒と普通酒を加えて、合計 725 銘柄がエントリーされました。

日本の品評会とは少し違い、IWC では個性的で香りの華やかなお酒が好まれる傾向にありますが、これは海外の市場の嗜好を知るためには大変重要な指標になっていきます。

では、私の英国での日本酒普及活動の場面を、4 つに分けてご紹介します。まずは、英国の象徴、ウェストミンスターパレス、国会議事堂です。2009 年には日英修好 150 周年を祝って、英国議会オープニングの公式ランチで初めて日本酒を振る舞いました。今年も日英議員連盟と協力して、日本酒テイastingを行いました。今後も継続的に行う予定です。

世界の大企業、富裕層が集まるロンドンの金融街でも、積極的に日本酒を紹介しています。ご覧の写真は、世界最大の投資会社での日本酒レセプションの様です。ワイングラ

スで冷たい吟醸酒を飲みながら交流を楽しんで頂きました。

ヨーロッパにいますと、日本酒に対して間違った先入観を持っている人が非常に多いことに気づきます。日本酒はアルコール度が高い蒸留酒、つまりウォッカやウイスキーのような飲み物である、日本酒は温めて飲むもの、日本酒は寿司としか合わない、といった偏見を皆さんは持っておられるのですが、これらの誤解を解いて、'日本酒もワインのように気楽に飲めるのですよ' '日本酒も洋食と結構相性がいいですよ' といった感じで、1つ1つひも解くように導いていくことが大事だと感じています。

そして、日本酒のプロモーションのコアとなっているのは何といても日本大使館です。林景一大使をはじめとする大使館員の皆様は本当に熱心に日本酒をプロモートされています。こちらの写真は IWC の恒例の受賞祝賀試飲会です。今年も 15 蔵が参加し、多くの日本酒ファンが大使館に訪れました。

左下の写真は Japan 400、去年は日英交流が始まって 400 年周年念だったのですが、そのときの鏡開きです。このように、日本酒が今では日本のアイデンティティー、おもてなしの心として、いろいろな場面で登場するようになりました。

最後は教育の場面です。これは、今、私は特に力を入れているところです。英国にはご存じのように、名門オックスフォード大学、ケンブリッジ大学等があり、そこには未来を担う若者たち、いわゆる世界の将来のリーダーたちが集まり、勉学に励んでいます。数年前より大学構内で試飲会やパーティ、日本酒講義を開催して、日本酒を通じて日本を紹介しています。

左に見える日本酒講座には、250 人がすぐに集まり、その中には 45 か国の国籍を持った生徒がいると聞いて本当に驚きました。

右側は、オックスフォード大学院、MBA チームですが、彼らは卒業のプロジェクトに日本酒をプロジェクトとして、'日本酒の英国市場調査' を行なってくれました。その結果は日本酒業界でもシェアするという事です。このように、オックスフォード大学の若者は、今とても日本酒に興味を持っているというのを肌で感じています。

最後に、私がロンドンにいるからというわけではないですが、世界に日本酒を広める上で英国がなぜ大事であるか、'海外市場開発における英国の重要性' について 2 点触れさせてください。

1つは、ロンドンがもつ情報発信力です。世界のトレンドは英国のメディアを通じて作られると言っても過言ではないと思います。BBC に代表されますように、情報の「信頼性」  
「信憑性」においても定評があります。

もう1つは、'The London is the capital of fine wines' というのですが、ロンドンは世界のワインキャピタルです。実はフランスではありません。あまり知られていませんが、ロンドンは世界のワインビジネスのハブであり、そこにはオークションハウス、ワイン教育機関、先ほどの IWC のようなワイン審査会が4つほどあります。そしてワインジャーナリズムのメッカとなっています。このように、ロンドンの巨大な発信力とワインネットワークが利用できれば、世界へ日本酒の魅力を伝えるということも決して無理ではないと思っています。

最後になりますが、今年から私は、日本酒造組合中央会のリエゾンとして、生産者である蔵元さん達のサポートもすることになりました。楽しみにしています。微力ですが、日本酒と日本の素晴らしさを世界に伝えられるように、ロンドンから日本のために努力を続けていきたいと思っています。これからもよろしくご指導をお願いいたします。ありがとうございました。